

赤十字防災セミナー

災害への備え

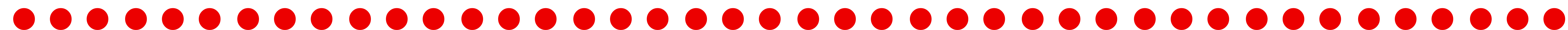


日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

内容

- 日本赤十字社について
- 地震からいのちを守る
- 大雨・土砂災害からいのちを守る
- 暮らしをつなぐ
- まとめ

セミナーの目的



災害に備えるために

「自助」



「共助」



- 災害発生時に「いのちを守る」
- 災害発生後の「暮らしをつなぐ」

日本赤十字社について



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

- 「赤十字」の名前はみんな知っている

「日本赤十字社」の認知度 98.9%

- 「赤十字」が何なのか、何をしているかは、

あまり良く知られていない？

- イメージ ⇒ 献血、病院、災害救護



日本赤十字社の活動

■災害救護活動

災害現場での
医療救護や救援物資の配布。



■赤十字講習

病気やけがの予防と
とっさの時の手当など、
健康で安全な生活。



■医療事業

地域医療への貢献。
災害などに備えて医師、
看護師を訓練。



■看護師等の養成

救護や医療にあたる
看護師などを養成。



■青少年赤十字

学校を通じて
いのちと健康を大切にする
意識や思いやりの心を育成



赤十字活動は、みなさまからいただいた
活動資金で支えられています。

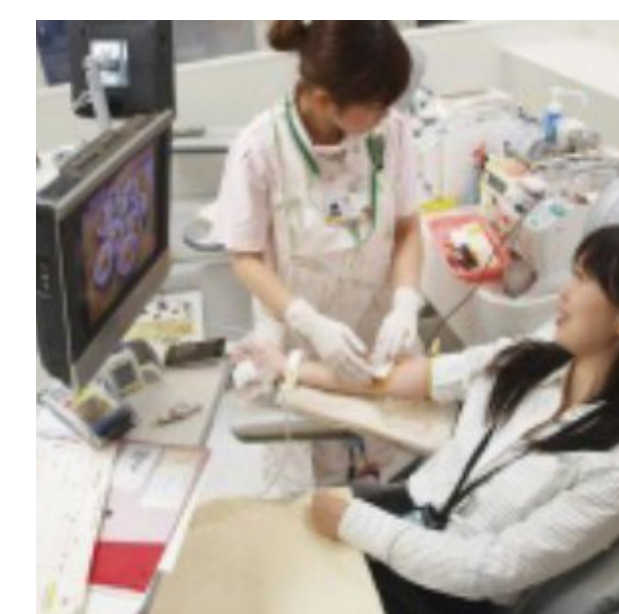
■国際活動

世界中の紛争や
災害の被災者に支援の手を。



■血液事業

あなたからの
温かい贈りもの、献血。



■赤十字ボランティア

赤十字を支え合う
ボランティア。助け合う心。



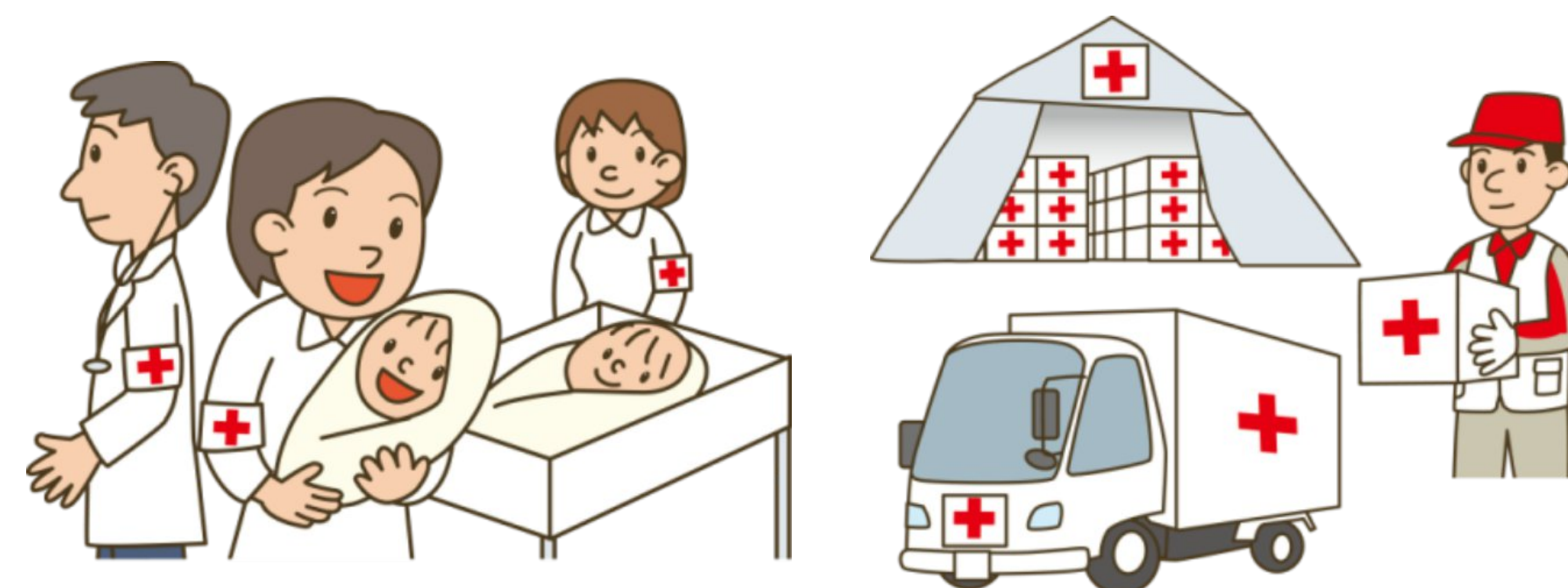
■社会福祉

こどもやお年寄り、
障害のある人のための
社会福祉施設の運営。



国内災害救護活動

- 医療救護
- こころのケア
- 救援物資の備蓄と配分
- 災害時の血液製剤の供給
- 義援金の受付と配分
- その他災害救護に必要な業



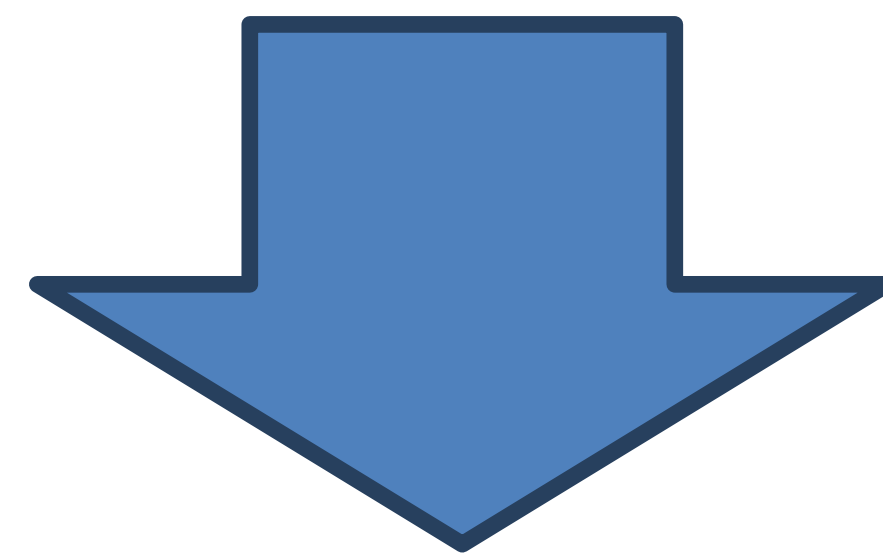
務 発災後、人々のいのちを守り、
苦痛を軽減することにご貢献しています

国内災害救護活動（埼玉県支部）



日本赤十字社の防災・減災への取り組み

- 自分自身と家族のいのちを守る（自助）
- 自分自身と家族の安全が確保できたら、率先して他の人を助ける等、地域の安全に貢献する（共助）



地域に住む一人ひとりが
「自助」「共助」の力を高
めるお手伝いをする

ミッションステートメント

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

ト 日本赤十字社の使命

わたしたちの基本原則

わたしたちの決意

いのちを脅かす様々な事象（災 地震、津波、大害、）洪水、がけ崩 れ、 竜巻、豪雪、噴火、大規模な火事 等



提供:岩手県宮古市

東日本大震災



提供:国土交通省

平成30年7月豪雨

過去の事例を超える事態への対応

● 今後発生が予測される大規模地震（例）

| | 南海トラフ地震 | 首都直下地震 |
|-------------------------|----------------|---------------|
| 今後 30年以内の 発生確率(※) | 70~80% | 70% |
| 最大想定 死者数 | 約23万1千人 | 約2万3千人 |

※平成28年(2016年)に発生した熊本地震の発生確率は、発生時点では
 ほぼ**0~0.9%**でした。

出典：地震調査研究推進本部ホームページ(令和3年3月時点)、第39回中央防災会議資料、中央防災会議
 防災対策推進検討会議 首都直下地震対策検討ワーキンググループ資料(平成25年12月公表)

● 気候の変化による大雨・土砂災害の増加

局地的大雨の頻発

猛烈な台風の発生

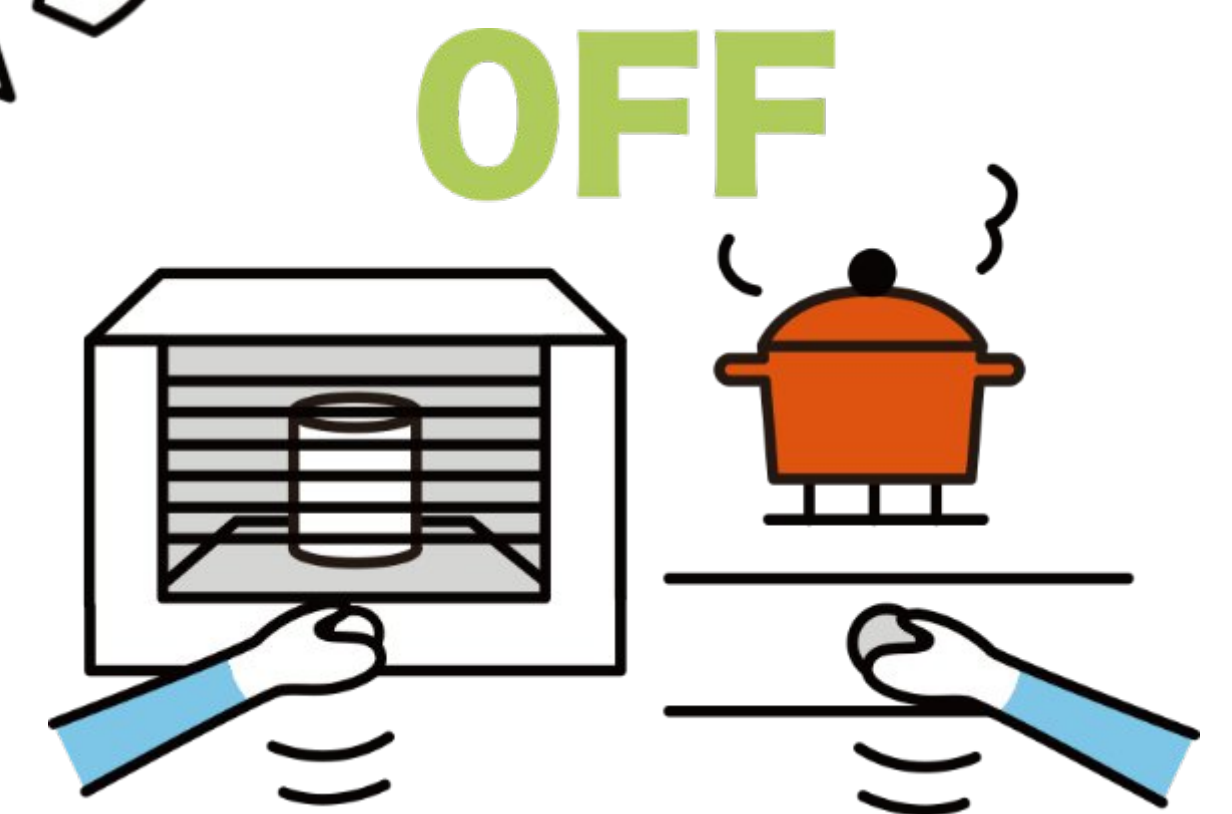
私たち自身が考え、行動することが重要

地震からいのちを守る

地震からいのちを守るために

1 地震発生時にとるべき行動

- まず身を守る
- 火の始末をする



2 住んでいる地域を知る

3 隣近所との日頃からの付き合い

モノが倒れる



モノが落ちる



出典：熊本素材写真アーカイブス・キロクマ

(<https://kumamoto.photo/archives/index.php?/category/263>)

モノが動く



地震による土砂災害

- 山間地の斜面崩壊
- 丘陵地・台地の造成盛土宅地の斜面崩壊

弱い地盤が地震の振動を受けて滑ることにより発生



平成30年北海道胆振東部地震の土砂災害の様子
出典：総務省消防庁ホームページ

地震による火災



広域で同時に多発し

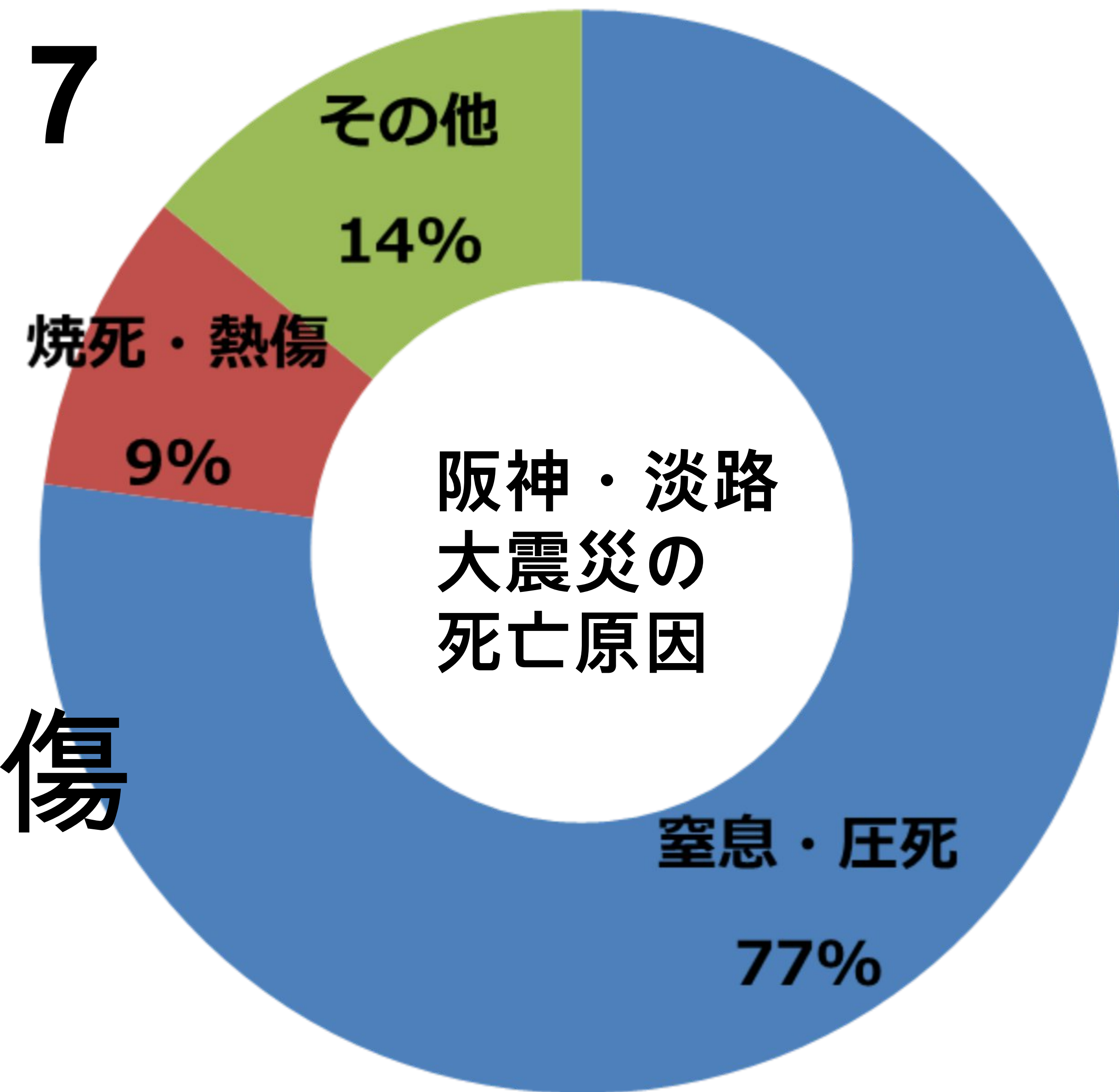
消火が追いつかない

出典：消防庁「チャレンジ！防災48」

地震による死亡の原因


阪神・淡路大震災（平成7年）

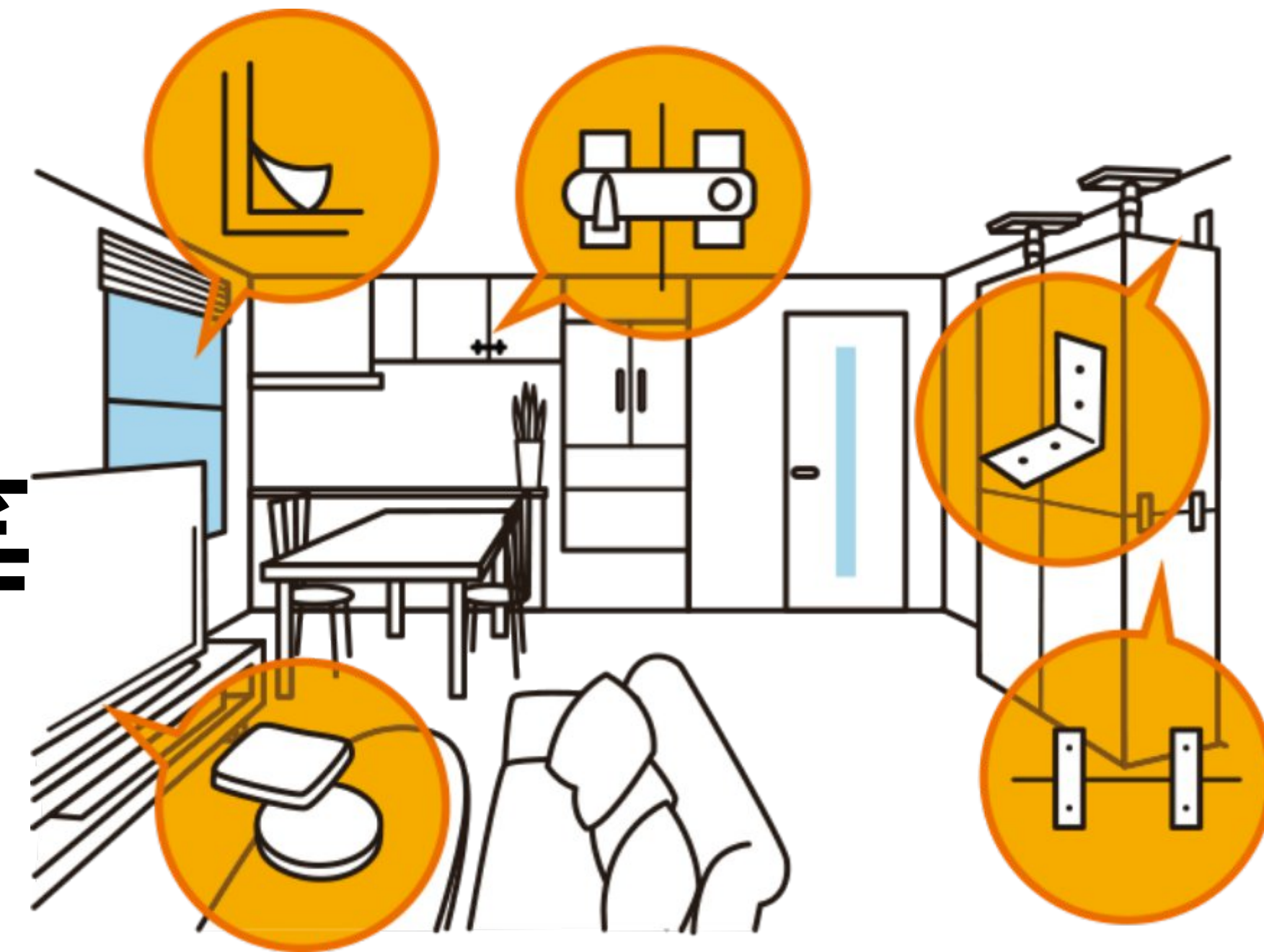
- 1 窒息・圧死
- 2 火災による焼死・熱傷
- 3 けが・外傷



いのちを守るために何が出来ますか？

被害を抑える・減らす


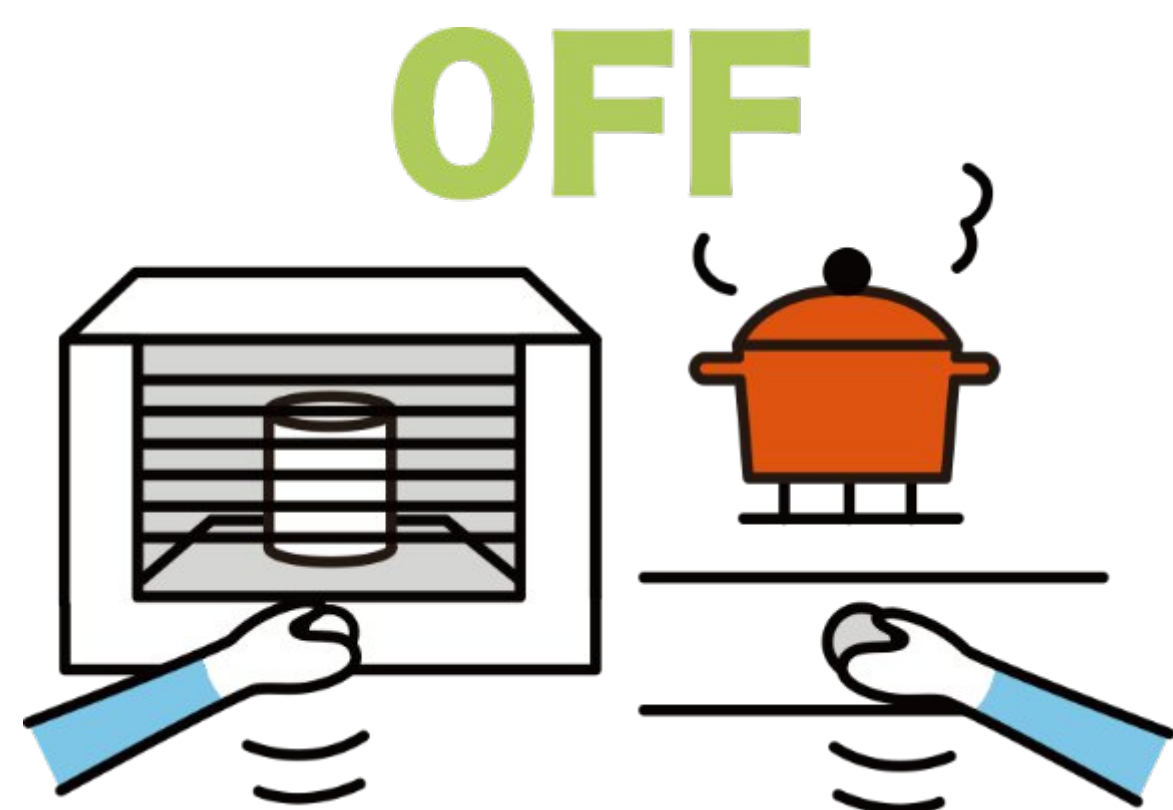

- 建物の耐震化や家具・家電の転倒防止
 - ガラス飛散防止フィルムを貼る
 - 高い所に重い荷物を置かない 等
- 
- An illustration of a kitchen area with a table and chairs. A speech bubble points to a high shelf, indicating a hazard. The speech bubble contains a yellow circle with a black outline of a person falling or a hazard symbol.



**家の中が安全であれば、すばやく逃げられる
（二次災害を防ぐ）**

火の始末

火を消すのは揺れが収まった後

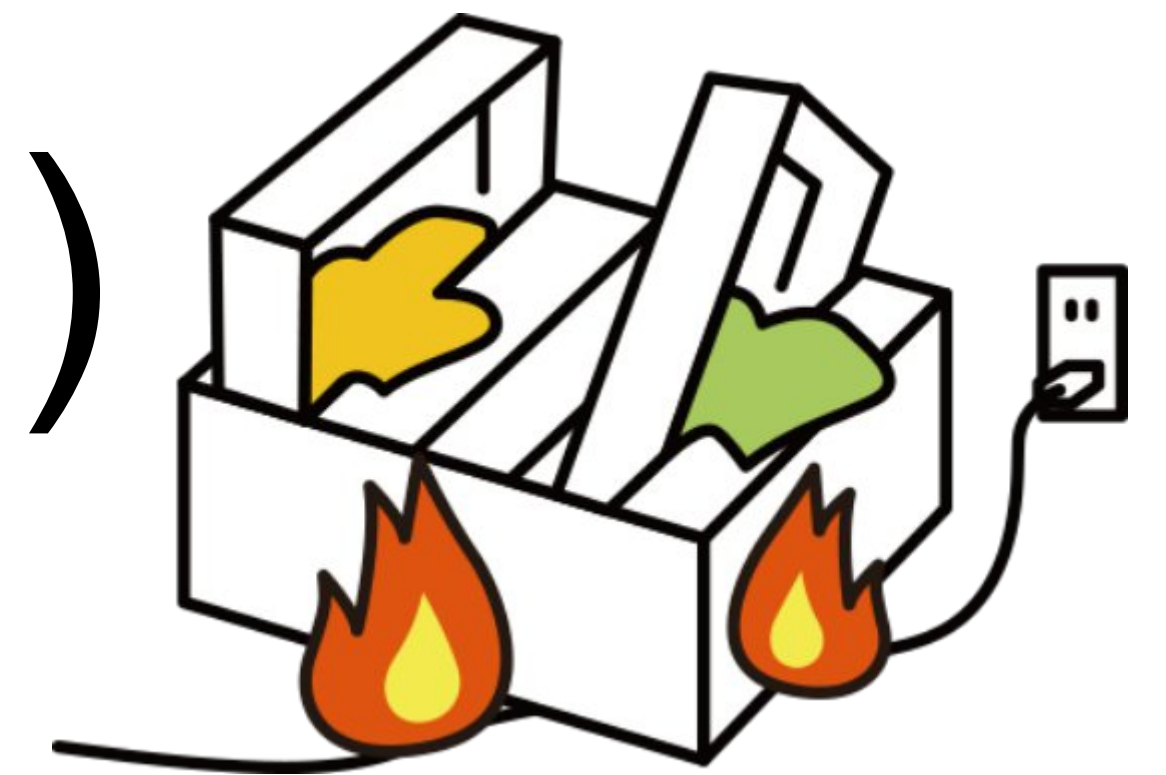
- 1 身を守る 
- 2 火の始末をする 
- 3 (万が一出火したら) 初期消火 
- 4 避難する際は、電気とガスを止める

気を付けたい火災の原因

- 落ちてきたものや倒れかかったものに暖房器具が接触して出火



- 電気復旧時に出火（通電火災）



通電火災の危険性

地震による停電から復旧した際、通電状態となった暖房器具や傷んだ配線などからの出火により発生する火災のことを通電火災といいます。阪神・淡路大震災（1995年）では、出火の原因が特定できた建物火災のうち、約6割がこの通電火災が原因といわれています。

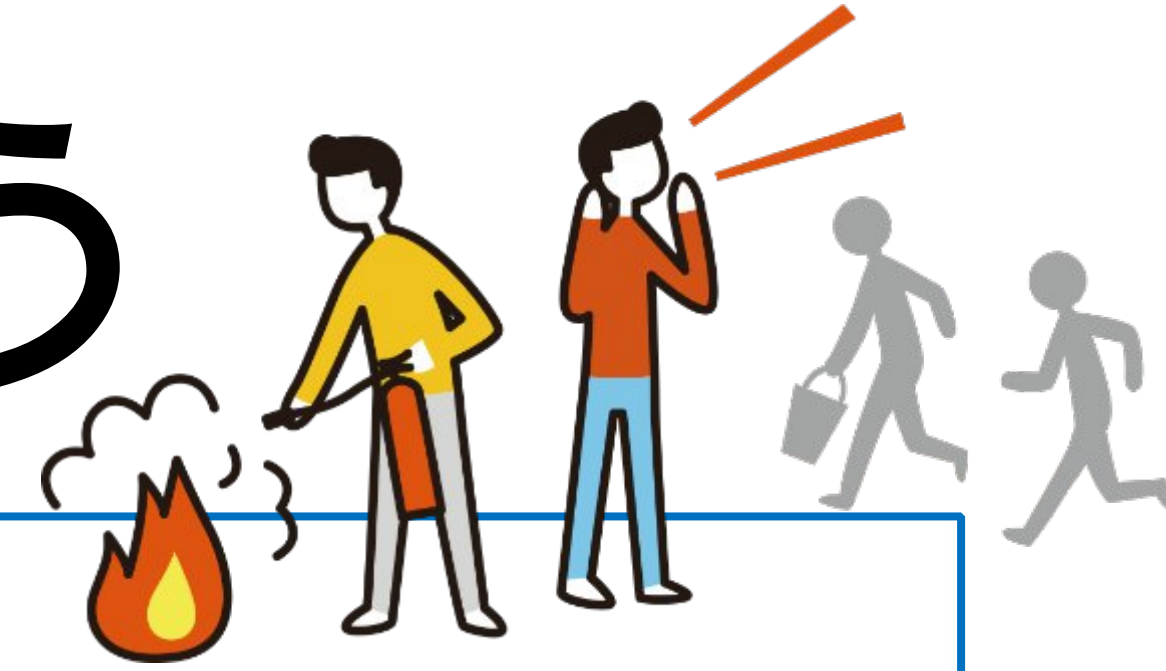
地域の力でいのちを救う



提供：阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

出典：消防庁「チャレンジ！防災48」

地域の力でいのちを救う



- ながたくとざきどお つうこうにん ふく じゅうみん やく にん いっ ち きょうりよく

• 長田区戸崎通りでは、通行人を含む住民約100人が一致協力し

も あ いえ な かこ ぼう か すい そう みず

て、燃え上がる家並みを囲むように 50m にわたり防火水槽の水

をバケツリレーした。
- にしのみやし じゅうみん しょ き しょう か じっし か さ い けん

• 西宮市では、住民が初期消火を実施した火災は 28件あり、その

けん ふ き ん しょう か き か て い しょう か き も よ

うちの4件が付近マンションの消火器や家庭の消火器を持ち寄

り、あるいは付近の河川、井戸、学校のプールなどからバケツリ

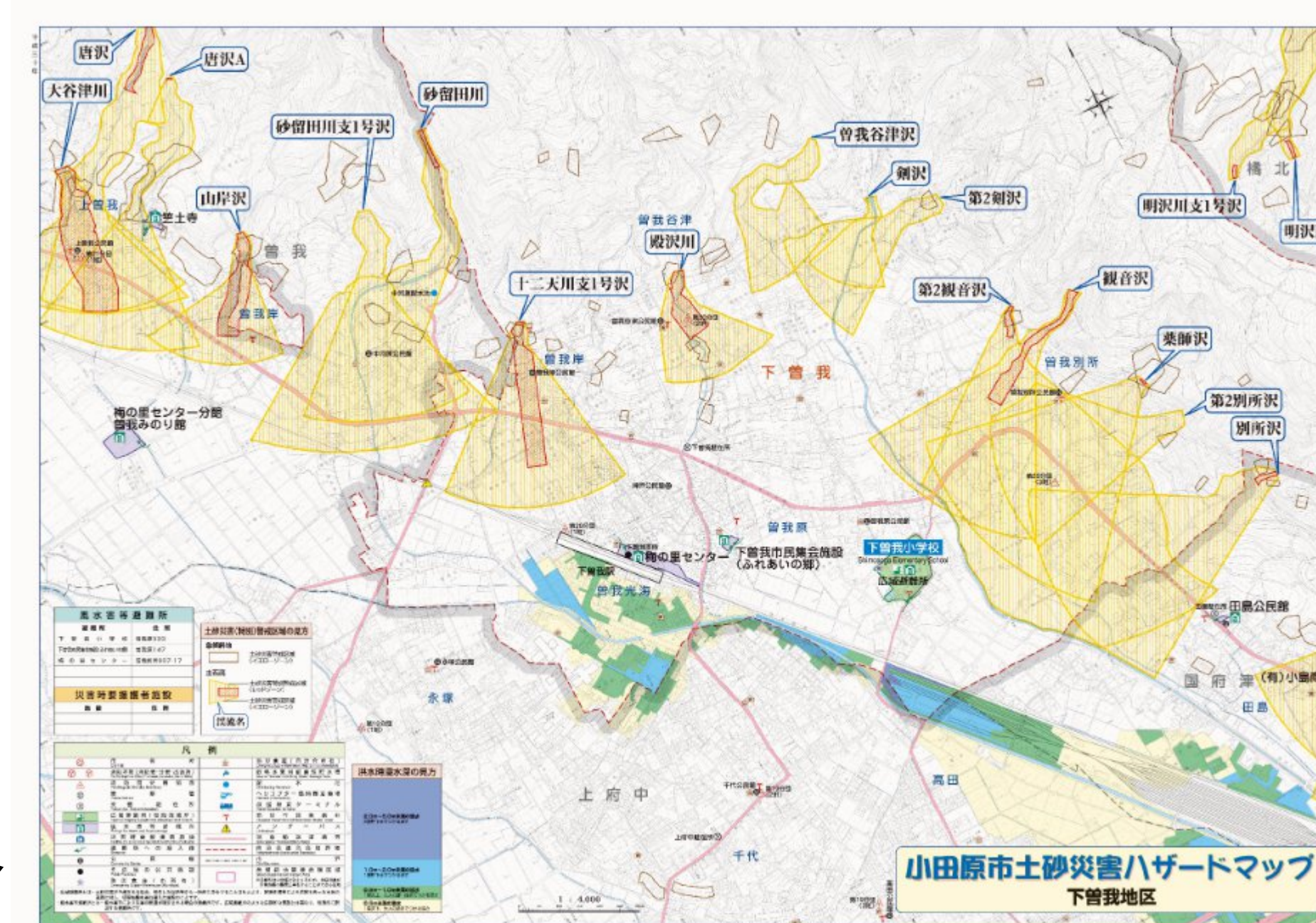
おこな しょう か せい こう

レーを行い消火に成功している。

住んでいる地域を知る

● ハザードマップ（防災マップ）を確認する

- 地域の危険性
- 避難場所・防災関連施設



● まち歩きをする

- 防災資源
- 危険箇所



いつでも必要に応じて利用できるように

地震が発生する危険性

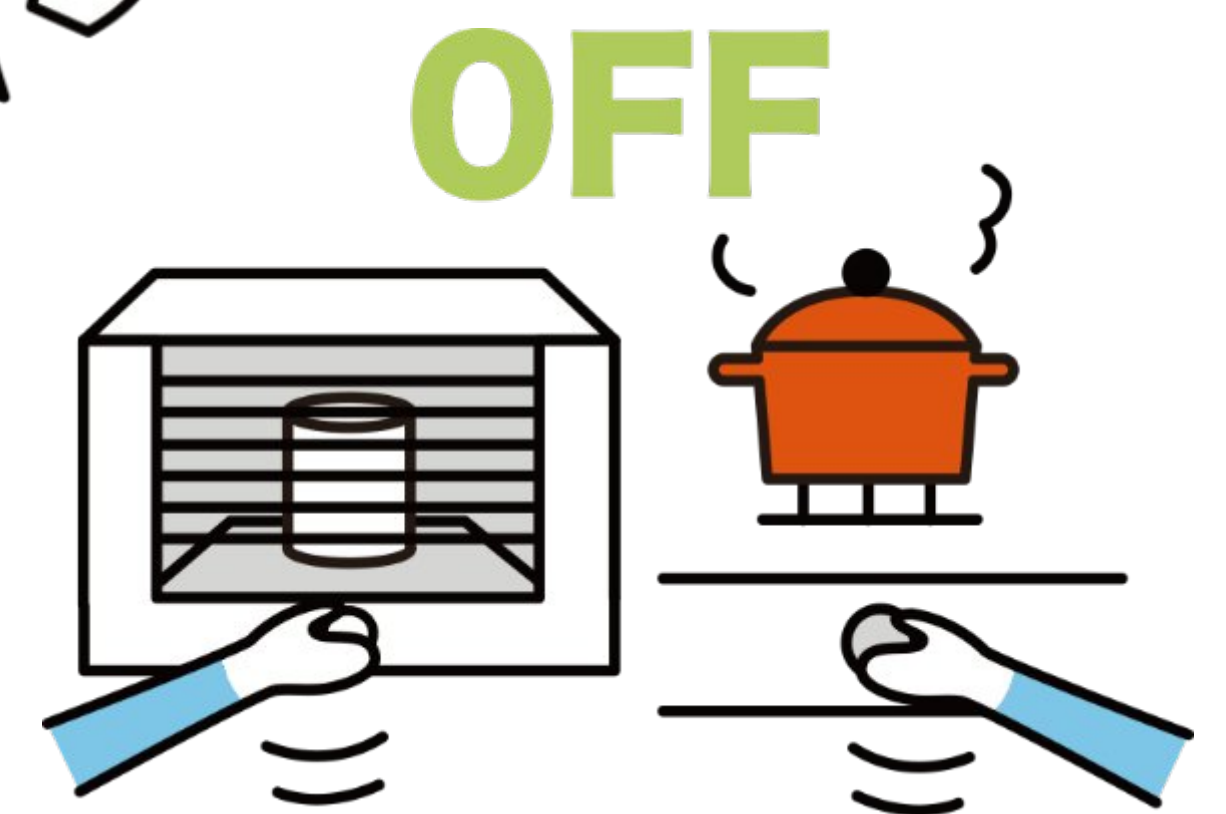
日本列島及び
周辺海域には
約2,000の活断層

日本では、いつ、どこでも、
地震に見舞われる可能性がある

地震からいのちを守るために

1 地震発生時にとるべき行動

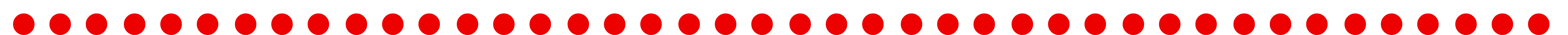
- まず身を守る
- 火の始末をする



2 住んでいる地域を知る

3 隣近所との日頃からの付き合い

大雨・土砂災害からいのちを守る



大雨・土砂災害からいのちを守る ために

早めに安全な場所に避難する

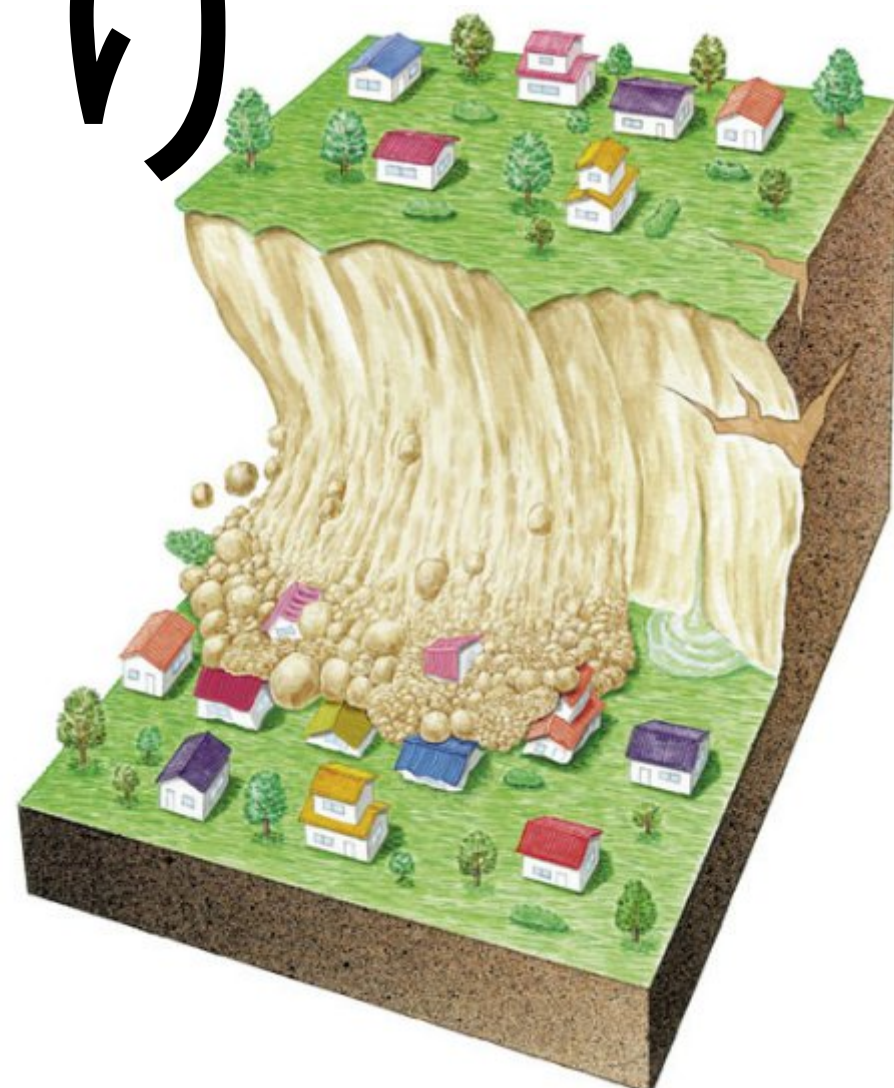
- 1 住んでいる地域を知る
- 2 情報を理解し、活用する
- 3 隣近所の日頃からのお付き合い

大雨による被害

- 洪水害
- 浸水害
- 土砂災害



がけ崩れ(斜面崩壊)
すべり



土石流



地



大雨による被害



出典：常総市災害記録誌「忘れない9.10」

(http://www.city.iocn.lg.jp/coshiki/sbicho_koshitu/bicho/kik09/gyoumu/hp/1465878218454.html)

アンダーパスの危険性



出典：一般社団法人 日本自動車連盟 写真：静岡市提供

(https://iafevent.jp/area/chubu/shizuoka/new_1/1705_22_005_9.html)

大雨による土砂災害（がけ崩れ）



出典：広島県砂防課 ～土砂災害 啓発・伝承支援制度～ 土砂災害啓発パネル（大人用）

大雨による土砂災害（土石流）



出典：広島県砂防課 ～土砂災害 啓発・伝承支援制度～ 土砂災害啓発パネル（大人用）
（<http://www.sabo.pref.hiroshima.lg.jp/densyou/index.html>）

大雨による土砂災害（地すべり）



出典：広島県砂防課 ～土砂災害 啓発・伝承支援制度～ 土砂災害啓発パネル（大人用）
（<http://www.sabo.pref.hiroshima.lg.jp/densyou/index.html>）

大雨・土砂災害からいのちを守る
ために

早めに安全な場所に避難する



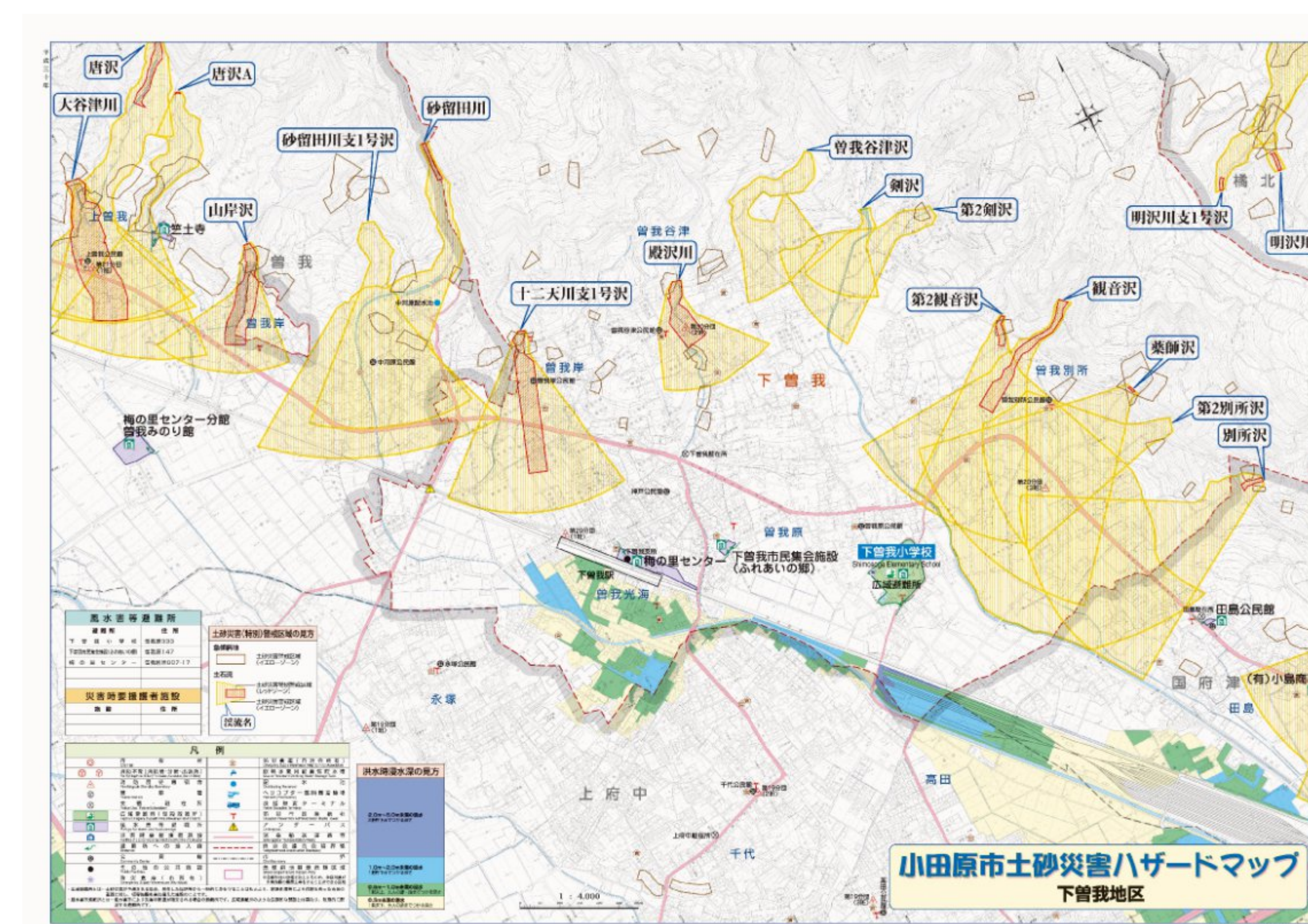
住んでいる地域を知る

● ハザードマップ(防災マップ)で確認する

➤ 被災想定区域

➤ 避難場所

➤ 防災関連施設



● まち歩きをする

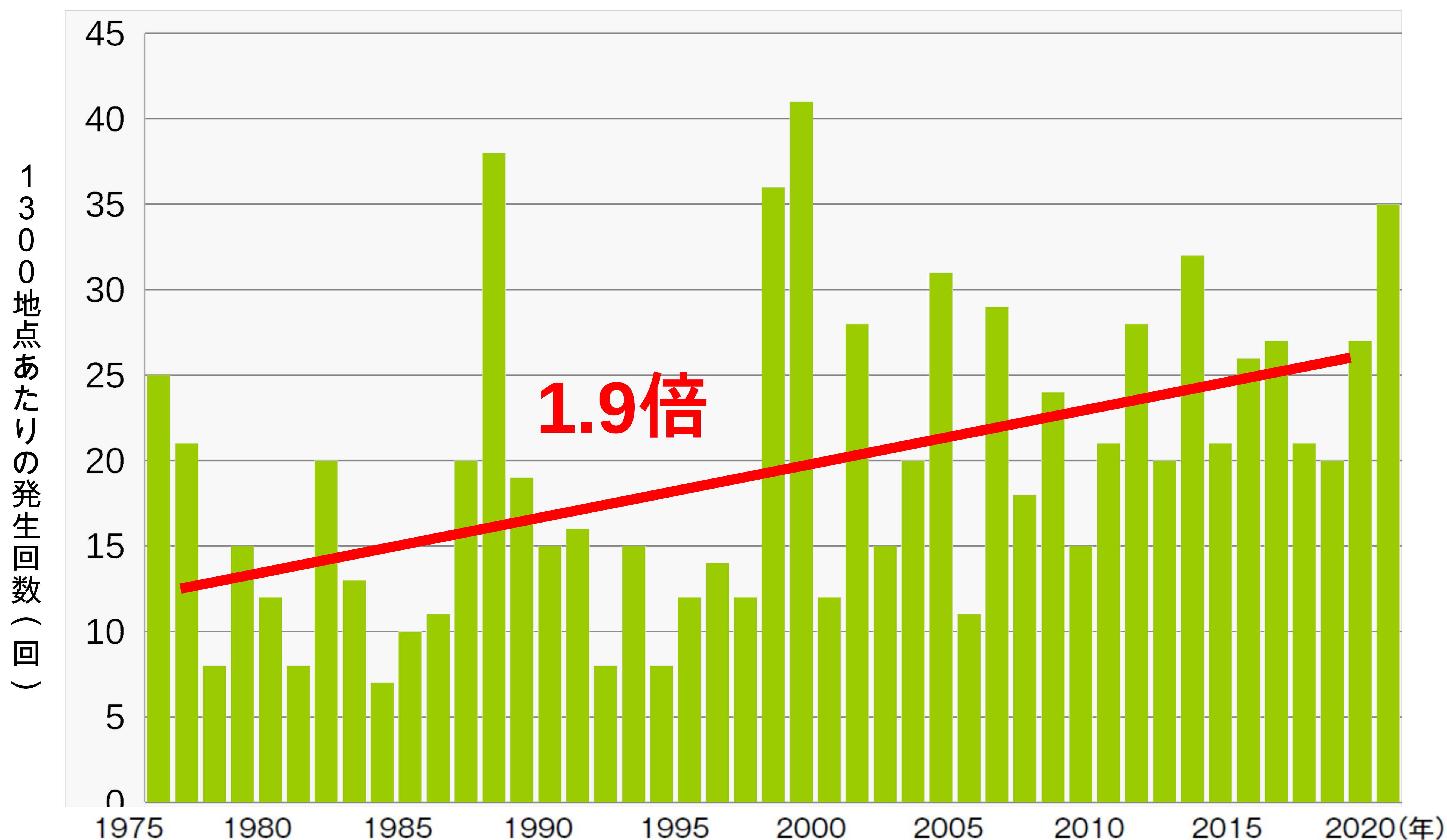
➤ 身近にある安全な場所



情報を理解し活用する

- 気象に関する情報
- 避難に関する情報
- 五感で感じる土砂災害の情報
(前兆現象)

1時間降水量80mm以上の年間発生回数



出典:気象庁ホームページ「大雨や猛暑など(極端現象)のこれまでの変化」を加工して作成

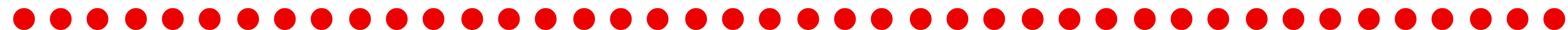
- ※ 棒グラフ(緑)は各年の年間発生回数を示す(全国のアメダスによる観測値を1,300地点あたりに換算した値)。
- ※ 直線(赤)は長期変化傾向(この期間の平均的な変化傾向)を示す。

大雨・土砂災害からいのちを守る ために

早めに安全な場所に避難する

- 1 住んでいる地域を知る
- 2 情報を理解し、活用する
- 3 隣近所の日頃からのお付き合い

暮らしをつなく

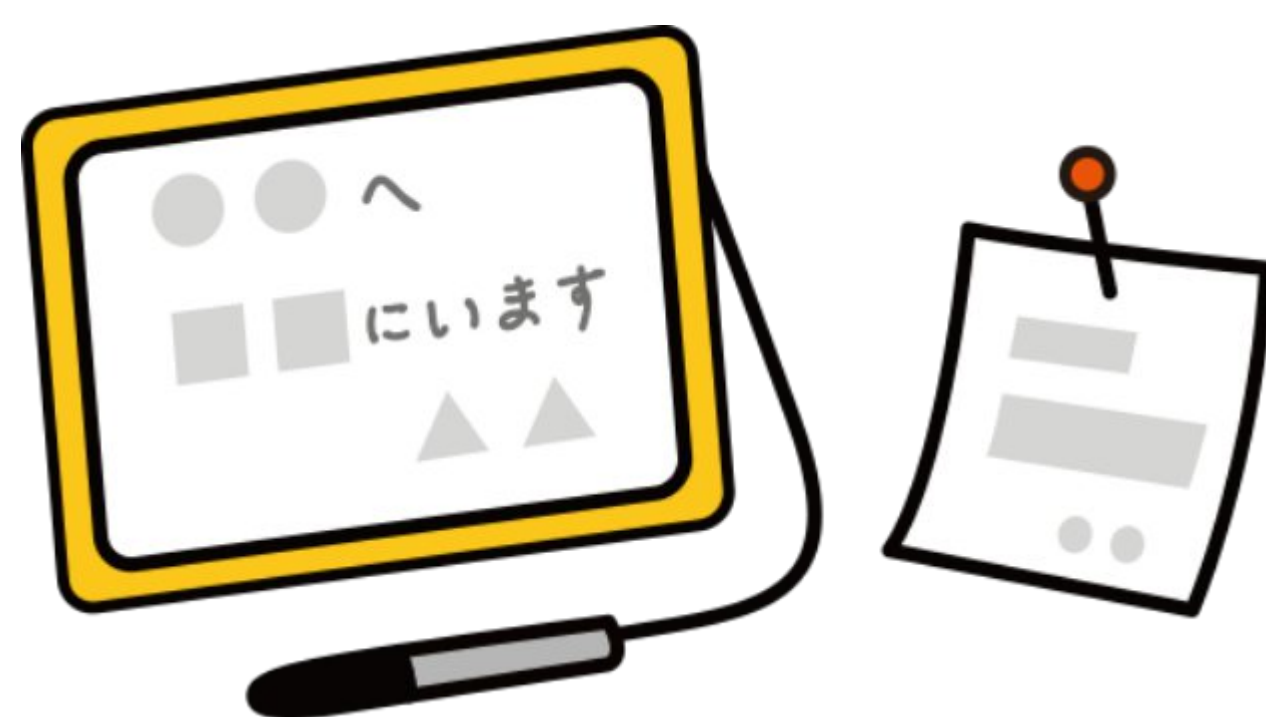


災害発生から 1 週間位まで

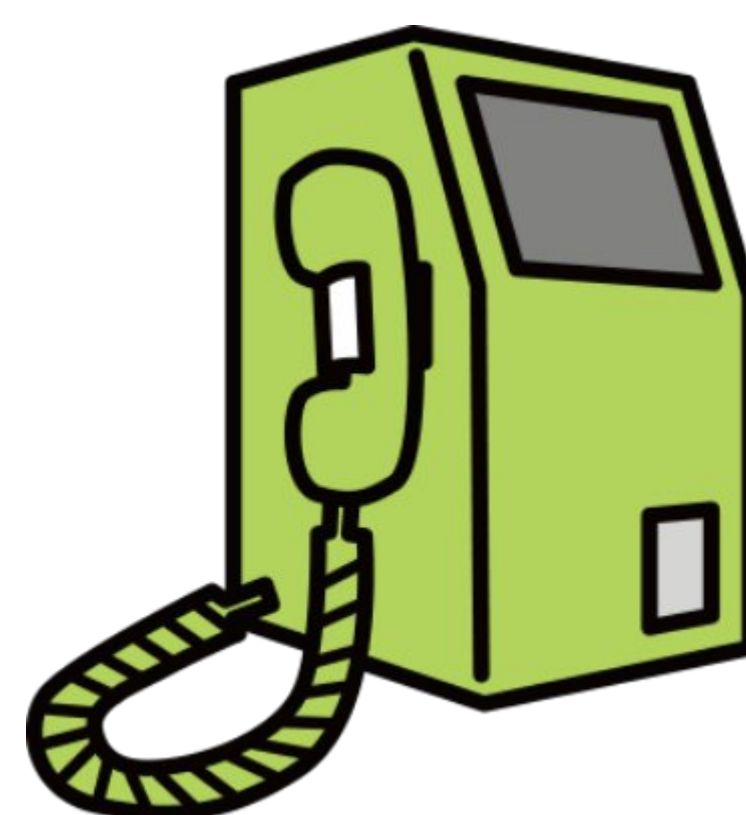
- いのちを救う活動が重要
- 安否確認が一段落
- 被害の全体像が段々と分かってくる
- 水道・電気・ガス（ライフライン）が停止
- 安全な場所での一時避難（避難所、親戚宅等）
- 被災者同士による協力

家族や知人の安否確認

電話は、発信や接続が制限される場合があります。
家族や知人等との連絡方法を予め決
めておきましょう。



メッセージボード等



公衆電話



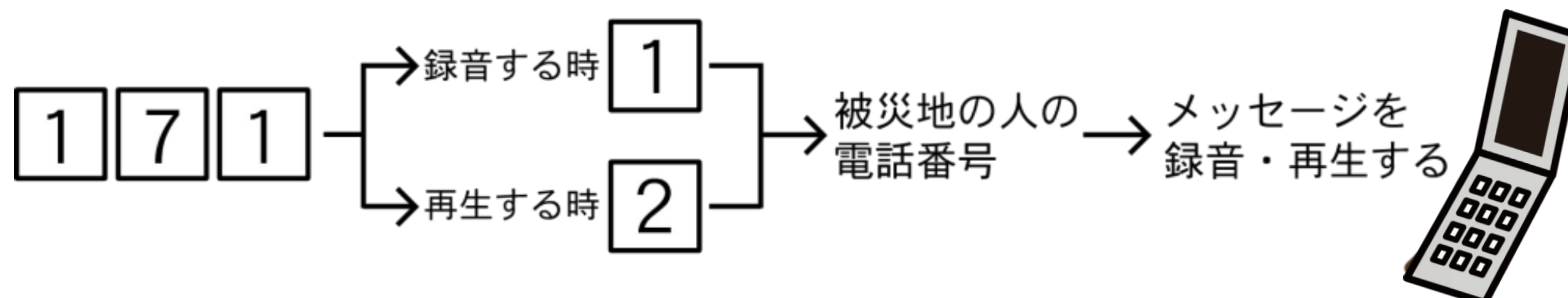
携帯電話



インターネット

災害用ダイヤル「171」の使い方

「171」に電話をかけ、ガイダンスに
したがって必要事項を入力します。
(携帯電話などからも利用できます。)



あなたが必要なものは

貴重品

※現物を持ち出せなかった場合に備えて、必要に応じてコピーを入れておく



情報収集用品



便利品など



食料など



清潔・健康のためのもの



個々の実情に応じて必要となるもの

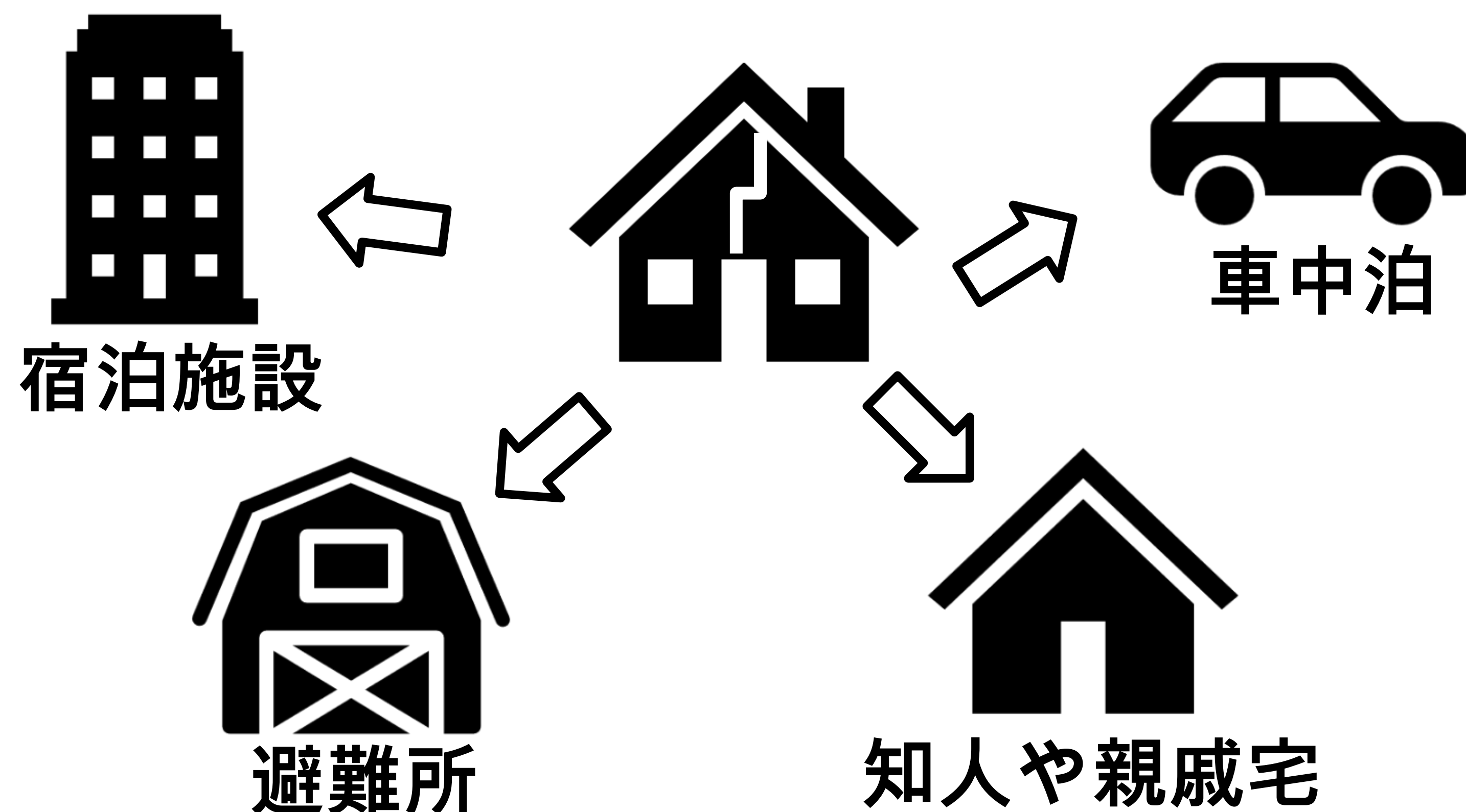


避難先について

- ・ 少人数・個別空間を確保できる避難先を選ぶ
- ・ 「分散避難」を心掛ける

自宅の安全が確保されていない

自宅の安全が確保されている

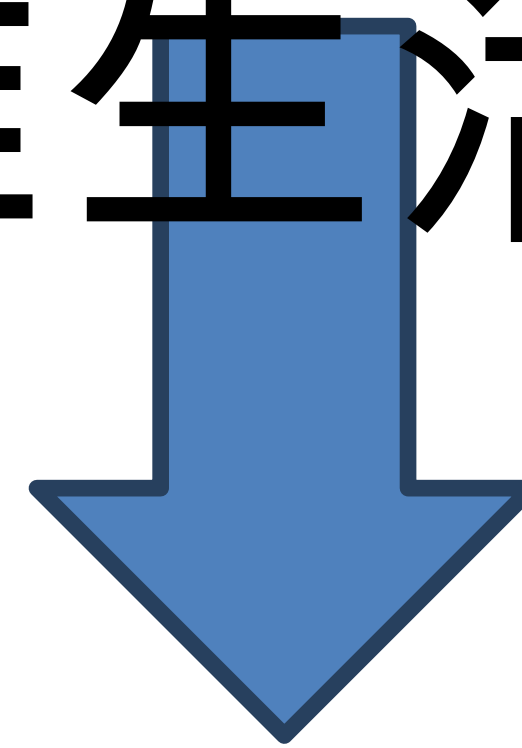


危険な状況では、直ちに安全な場所に避難する

これまでの日常とは全く異なる生

活

- 住家・家財に大きな被害
- 水道・電気・ガス（ライフライン）が停止
- 不自由な避難生活



皆で協力し、助け合うことが大切

【参考写真】

平成30年 7 月豪雨災害



【参考写

令和2年7月豪雨災害

真



避難所での集団生活で意識すること

- ・ 他の避難者への配慮



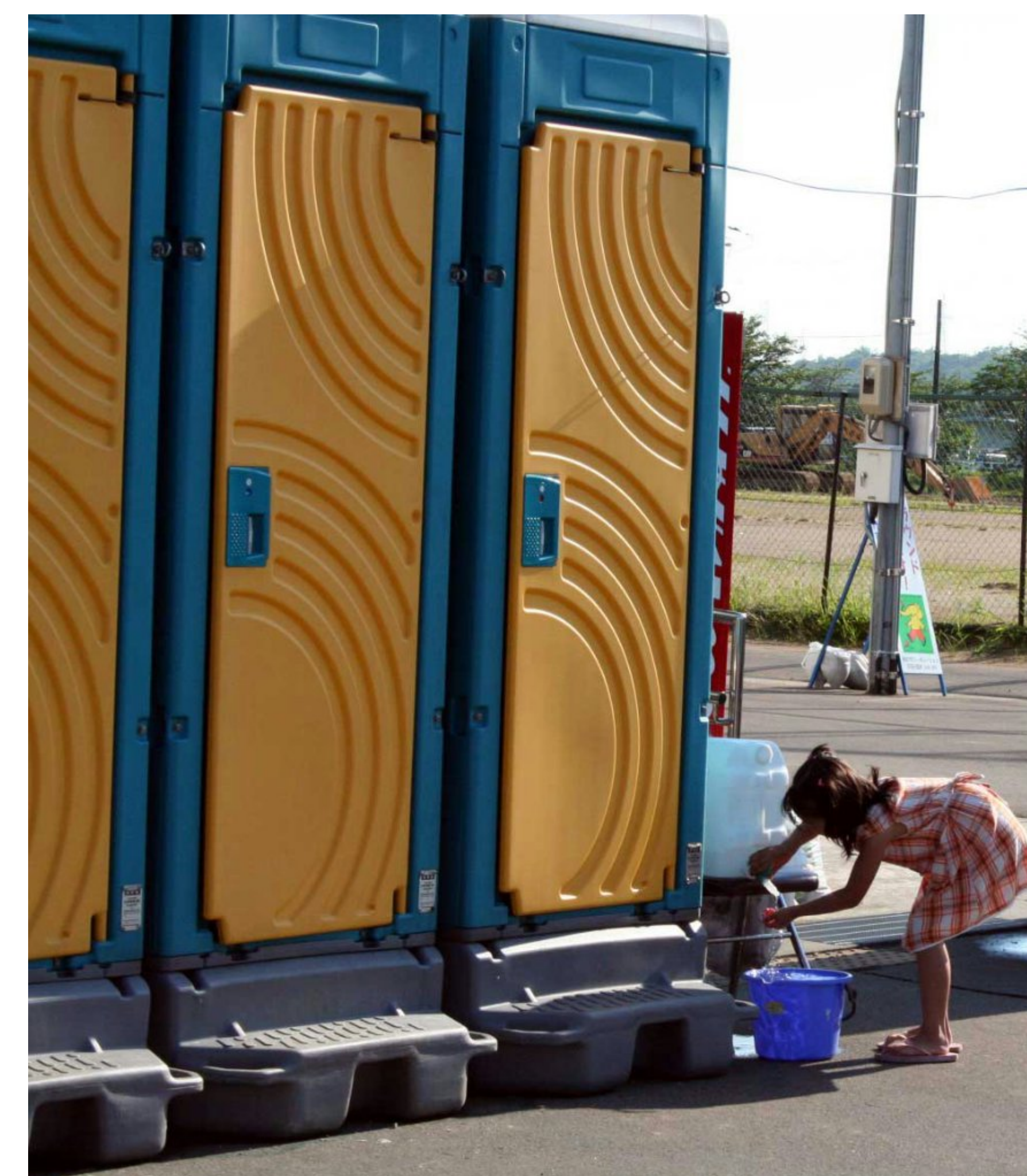
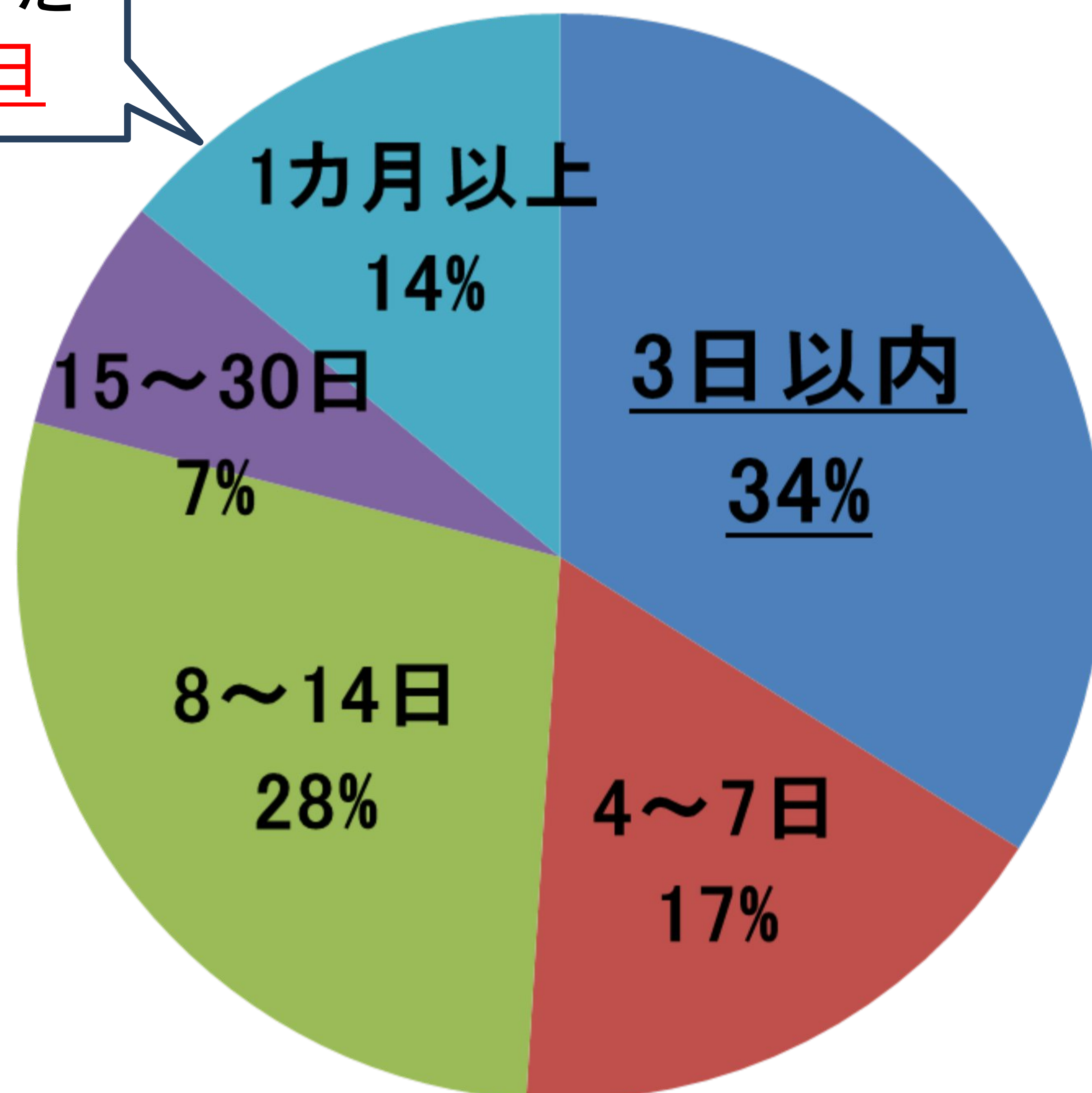
- ・ 避難所運営者に協力する

避難所運営者も被災者である

無くて困ったもの

仮設トイレが被災地の避難所に行き渡るまでに要した
日数（東日本大震災）

最も日数を要した
自治体は65日



過去の災害における事例

- ・ 東日本大震災

⇒ 岩手県内の避難所で
数十人規模のインフルエンザ患
者

- ・ 平成28年熊本地震

⇒ 南阿蘇村の避難所などで
ノロウイルスを含む感染性胃腸炎患
者

新型コロナウイルス感染症の対策を活用

マスク・3密回
避

手洗い・ラップ



過去の事例：インフルエンザ、
ノロウイルス

集団で生活する場合の感染症対策

皆様へのお願い ～感染症予防のために～

トイレについて

- ◇ トイレはきれいに使いましょう。
- ◇ トイレを汚した場合には職員にお知らせください。
- ◇ 使用前後には便座を拭きましょう。



手洗いについて

- ◇ トイレのあとや食事の前には手を洗いましょう。
水が出ない場合には、
 - ・アルコール消毒剤を多めに手に取り、
手拭き用の紙で拭き取りましょう。



食べ物について

- ◇ 袋入りの食べ物は、手でちぎって食べたりせず、
直接食べましょう。
- ◇ おにぎりを握る時は、使い捨て手袋の使用やラップ
に包んで作りましょう。



お願い 嘔吐・下痢・発熱などの症状のある方は
すぐに職員又は管理者等にお知らせください。

相談してルールを決めていくことが必要

- ・感染症対策
- ・物資の配給
- ・たばこ
- ・ごみの分別
- ・更衣室



ルールを変えていくことも必要

相談して決めたルールを伝えよう

たばこ

- 互いのストレスを
考える？

→
」

「指定場所**以外**は禁煙

- 火事の原因？

物資の配給

パン（ひとり１個）

配布場所：受付

* 代表者１名来
て！

ゴミの分別

- ・ 燃えるゴミ
- ・ 燃えないゴミ
- ・ 資源ゴミ

更衣室

・ 男性更衣室：XXX

分別・女性更衣室：○○○

必ずカギを閉めましょう

伝え方を工夫すれば 更に伝わりやすい！

漢字がわからない

→ イラスト、外国

語

文字が読めない

→ 拡声器

生活のリズム

起床時間：○時○分

就寝時間：○時○分

ラジオ体操：○時○分



明るいニュースも大切

3月XX日

桜

にツボミがつけました

もうすぐ春です

災害時におけるリーダーの必要性

災害時は

- 発生直後から状況が様々に変化する
- 状況の変化に応じてニーズが変わる
- 時間の経過と共に、公的機関・市民団体等の支援活動が始まり、様々な調整が必要

になるリーダーに協力する、
あるいはリーダーになる



暮らしをつなぐために

- 1 自分にしかできないことは自分で備える
 - 無ければ生活に支障がでるものを準備
- 2 自分だけでは成り立たない暮らしを皆で助け合う
 - 隣近所の人たちとの関係
 - リーダーの役割



まとめ



自助・共助・公助

自分や家族の身
は自分たちで守
る

自助

共助

近隣住民や地域の人
たちが互いに協力し、
助け合う

地域の
防災力

公助

国や都道府県、
区町村などの
機関や公的
による対応

市
行政
機関

●災害時（特に直後）
は、「公助」に期待
できない

- ✓道路の寸断等で地域が孤立
- ✓行政等も自身が被災

出典：内閣府（防災担当）「地域防災リーダー入門」

災害に備えるために

「自助」の力を高める
= いのちを守り、暮らしをつなぐ備えを 実行する

「共助」の力を高める
= 人を知る

災害からいのちを守る基盤